

大学生の自発的な NPO 活動を通じた自然観察パンフレットの作成

— 地域の自然利用と保全の促進を目的とした支笏洞爺国立公園の 月浦森林自然公園での事例 —

上原裕世¹⁾・工藤知美^{2,3)}・吉田剛司^{1,2)}

Publishing nature guide brochure by university-based nonprofit activities
— the community based conservation goal of Tsukiura Forest park of Shikotsu-Toya
National Park, Hokkaido —

Hiroyo UEHARA¹⁾, Tomomi KUDO^{2,3)} and Tsuyoshi YOSHIDA^{1,2)}
(Accepted 17 July 2014)

はじめに

大学に所属する学生による特定非営利活動には様々な形態がある。特に地域貢献を目的とした学生主体のボランティア活動や団体設立による活動は、地域に若い世代の柔軟で豊かな発想をもたらすだけでなく、地域の活性化や社会貢献のきっかけにも成り得る。しかしながらその取り組みは、外部への発信や情報共有が十分になされないまま収束することが多く、次の活動への発展性に乏しい。

そこで本論では、特定非営利活動法人を拠点とした大学生による地域貢献を目的とした取り組みの事例として、北海道洞爺湖町の支笏洞爺国立公園内に位置する月浦森林公園における自然観察パンフレットの作成について紹介するとともに、今後の地域貢献型の学生主体団体による取り組みの発展に寄与することを目的とする。

特定非営利活動法人 TNR

特定非営利活動法人(以下、NPO 法人) TNR(The Natural Resources)は、北海道の豊かな自然環境を保全することを目指し、野生生物、森林や河川、そこから生産される二次的産物すべての自然資源(Natural Resources)の保護活動や普及啓発を行い、専門的な知識を有する担い手の育成や地域社会

で活動できるシステムの構築に寄与し、北海道の生物多様性の保全活動を推進することを目的とした NPO 法人である。酪農学園大学生命環境学科(平成 17~25 年度)の卒業生、または酪農学園大学大学院に進学した学生を中心として 2012 年 2 月に設立され、同年 6 月に法人格を取得した。所属メンバーは大型哺乳類(特にシカ類)や鳥類の調査研究や保全に関する専門的な知識を有するほか、近隣地域の自然観察会への補助的活動、さらには大学の協定地域である洞爺湖町においても積極的な環境教育活動を実施してきた。2013 年 12 月には、同大の環境教育に関する有資格者である大学生・大学院生が中心となって 2007 年 8 月より札幌圏にて環境教育活動を専門に実施していたボランティア団体 ecoArk(エコアーク)と統合し、より専門的かつ実践的な環境教育活動に従事する体制を整えた。これらの活動が高く評価され、道内での助成金を受けての活動にも積極的に従事してきた。なかでも洞爺湖町においては 2 年間に渡り、地域の生物多様性や自然環境の豊かさを地元市民の方が見直すきっかけを提供し、自然の魅力を発信する普及啓発活動に主眼を置いてきた。

洞爺湖町月浦森林自然公園

洞爺湖町は胆振総合振興局西部に位置し、東に隣

¹⁾ 酪農学園大学大学院酪農学研究科野生動物保護管理学研究室

Laboratory of Wildlife Management, Graduate School of Dairy Science, Rakuno Gakuen University, 582 Midorimachi, Bunkyo-dai, Ebetsu-shi, Hokkaido, 069-8501, Japan

²⁾ 酪農学園大学環境システム学部生命環境学科野生動物保護管理学研究室

Laboratory of Wildlife Management, Department of Biosphere and Environment Science, Rakuno Gakuen University, 582 Midorimachi, Bunkyo-dai, Ebetsu-shi, Hokkaido, 069-8501, Japan

³⁾ NPO 法人 EnVision 環境保全事務所

EnVision, Kita 9, Nishi4-5-2 Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido, 060-0809, Japan

所属学会：日本生態学会

接する壮瞥町にある有珠山、昭和新山等の活火山に起因する洞爺湖温泉が著名な観光地である。洞爺湖町では2008年にはG8サミット（主要国首脳会議）が開催され、地域の生物多様性保全を推進する活動が活発な地域となっている（吉田ら2013）。特に温泉街を含む洞爺湖周辺は、支笏洞爺国立公園内において最も車道密度が高い地域である（八巻1997）。

月浦森林自然公園は、洞爺湖の西側に位置する約250m四方の小規模な森林公園であり、同国立公園に含まれている。しかし近年、公園の利用者数が伸び悩み、利用状況の低下から適切な管理がされておらず、一部の散策路や橋は荒廃が著しい。国立公園内の自然公園として、また地域が有する優れた自然環境として、適切で継続的な利用と管理が緊急の課題である。利用者数が少ない要因としては、観光客が訪れる主要観光地域である洞爺湖温泉街から離れた場所に位置することや、国道からも遠く、認知しにくい立地であることが挙げられる。また周辺住民の利用が少数である要因は、公園の利用意義や魅力が十分に理解されておらず、これらの認識・理解の不足は、さらなる公園の環境劣化をもたらすことが懸念される。公園の質を向上させるためには利用の促進と周辺住民の意識改善が必要不可欠であるとともに、自然環境の利用において観光と保全の両立には、徹底した情報提供が重要となる（土居2012）。

そこでNPO法人TNRでは平成25（2013）年度北海道新聞野生生物基金助成（採択事業タイトル：洞爺湖の自然を再発見！『月浦自然観察ガイドブック』の作成）を受け、地域での公園利用を促進するため、月浦森林自然公園の魅力や訪れる意義を紹介する周辺住民を対象としたパンフレットを作製した。

パンフレットの掲載項目

パンフレットの掲載項目を検討するために、北海道を中心とした約220部の自然地域を紹介するパンフレットを参考にした。これらの資料は、表紙、営業時間、入場料金、利用案内、アクセス、問い合わせ先、地図、注意事項、紹介や説明・メッセージの9項目で構成されることが多かった。本研究では洞爺湖町を中心とする地域における月浦森林公園の認知度と利用頻度を上げるために、パンフレットの掲載情報を以上の項目のうち、①表紙、②園内地図、③生息生物一覧、④在来種・外来種に関する説明、⑤メッセージ、⑥アクセスを選択した。

パンフレットの構成

岩田(2008)によると、京都府内の観光パンフレットの教育的効果を分析した結果、留意点として写真が多用されて解説が平易であること、さらに地図に工夫があり見やすいとともに興味を引くことを挙げている。特に地図には、写真やイラストを多用し、初見の者でも地域情報に親しみやすくする工夫が重要である(岩田2008)。本研究でも北海道を中心とした各地のパンフレット資料を参考に、地図を開きながら散策するにはA4/1ページが適切であると判断した。さらに携帯しやすいよう、折り畳んだ状態でA4サイズの3分の1となるようにした。また前述の掲載項目により全4ページ構成となったため、A3(297×420mm)サイズの両面印刷、DM折り(二つ折り後、巻き三つ折り)のパンフレットとした。

パンフレットの企画・製作体制

パンフレット作成の企画運営は、NPO法人TNRのメンバーでもある上原が担当し、執筆とデザイン、さらに写真収集を工藤が実施した。監修担当は野生動物保護管理学研究室が行った。パンフレットのイラスト作製、デザイン構成にはAdobe Illustrator CS5・CS6を用いた。デジタル画像編集にはAdobe Photoshop CS5・CS6を採用した。

成果物

① 表紙

公園名を大きくデザインし、月浦森林自然公園を知らなくても興味を引くよう、生態系を意識したカラフルな表紙を作成した。またキャッチコピーとして月浦森林自然公園を連想させるフレーズを記載した(図1)。

② 園内地図

地図は見開きでA4サイズとなるようにした(図2)。散策路について、公園内には複数の散策路が設置されているが、道幅が大小様々である。主要な道は幅が広く歩きやすいが、細い道は天候や季節によって路面の状態が変化する。これらを考慮し、利用者が任意に道を選択して散策できるよう、地図上の道幅を変えて表示した。散策路はすべてGPSを用いて踏査して、その位置情報を確実なものにした。さらに洞爺湖町との連携により、散策路のコース設定に用いられていた標識看板に植物や動物のアイコンを添えて、散策路間の所要時間の目安を示した。また、ぬかるみ、急な坂道など注意を促す記載を行っ



図1 月浦森林自然公園パンフレットの表紙

た。散策しながら観察できる植物についても、植物の写真を掲載するとともに地図上に観察できるポイントを示した。また園内には利用者のマナーや適切な利用法についての理解を促す掲示物は存在しなかった。そこで散策時のルールとして「動植物の住処を守るために」と題し、動植物を持ち帰らない・傷つけない、野生動物にエサを与えない等の注意点を明記した。

③ 生息生物一覧

「月浦森林自然公園の生き物」として写真とイラストを多用したページを作成した(図3)。森林の構造を示しつつ鳥類を中心に両生類、さらに動物の食痕などについても記述し、生物多様性と森林の循環についても目を向けられるように配慮した。

④ 在来種・外来種に関する説明

園内では過去に希少種である在来種のニホンザリガニ (*Cambaroides japonicus*) の生息が確認されているが、その一方で特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウ (*Rudbeckia laciniata*) が繁茂している。これ以上の外来生物の侵入を防ぐために、外来種問題に関するページを製作し(図4)、本来の自然環境への影響が出ないように公園を利用するこ

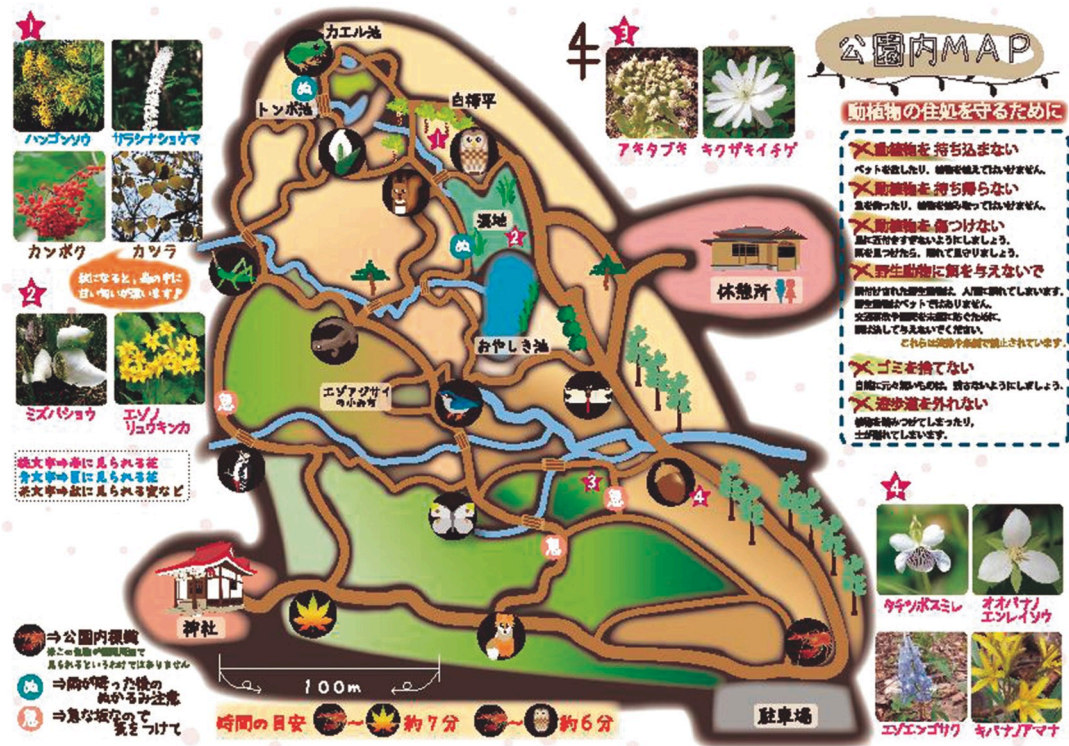


図2 地図のページ (右上に公園利用時のマナーと適切な利用法に関する注意点を記載)



図3 生息生物一覧のページ「月浦森林自然公園の生き物」

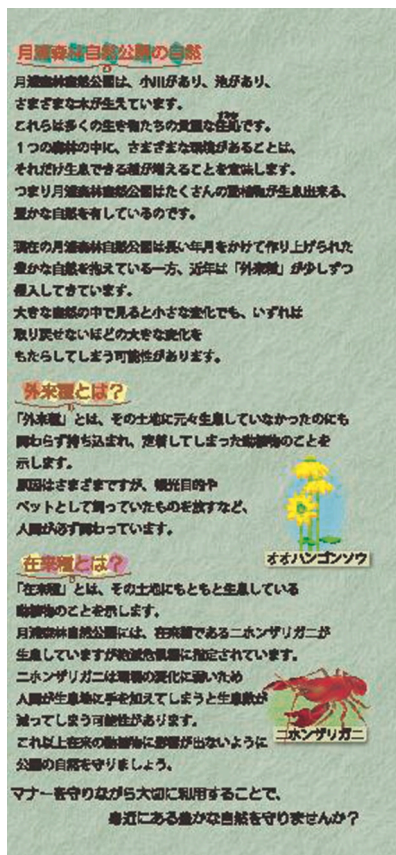


図4 在来種・外来種に関する説明のページ

とを促した。

⑤ メッセージ

「いのちのつながり」と題したメッセージページを作成した(図5)。月浦森林自然公園への来訪者には、鳥類や花の写真撮影のために訪れる人が多いことから、さらに多くの自然愛好者に来訪してもらうため、森林風景を中心とした写真を掲載して、公園の魅力を表現することを試みた。

⑥ アクセス

文字ではなく地図とイラストを用いたアクセスマップを作製した(図6)。主な対象が周辺住民であるため、アクセスマップには北海道における洞爺湖町の位置図は含めなかった。また近隣にはランドマークとなるような建物が存在しないため、洞爺湖の西側に位置することが明瞭に示された地図と、周辺道路や施設を含めた地図を掲載した。

まとめ

本パンフレットは、公益財団法人北海道新聞野生生物基金の助成を受け、水濡れに対応する耐水紙を用いて3,000部を印刷することができた。また、地域の新聞やイベントでも大きく取り上げられ、大き

を借りて厚く御礼を申し上げる。

引用文献

- 岩田 貢 (2008) 小・中学校社会科教育における観光資料の利用の試み — 京都府内の観光パンフレットに関する分析 —. 龍谷紀要 29(2) : 81-95.
- 土居利光 (2012) 観光情報から見た観光地化と自然保護との関係 小笠原南島に関する観光情報誌を事例として. 観光科学研究(5) : 81-94.
- 吉田剛司・窪田千穂・杉浦晃介・日野貴文・上原裕世・室田欣弘・宮木雅美・伊吾田宏正・中谷暢丈・吉田 磨 (2013) 酪農学園大学が実践した洞爺湖町における自然環境保全に関する活動報告. 酪農学園大学紀要 38(1) : 29-35.
- 八巻一成 (1997) 支笏洞爺国立公園におけるレクリエーション・アクセスの特徴. ランドスケープ研究 60(5) : 593-596.

Abstract

Rakuno Gakuen University students are actively involved in biodiversity conservation of non-profit organization. This article explains and shows nature guide brochure of Tsukiura Forest Park, located at Shikotsu-Toya National Park of Hokkaido, made by student's non-profit organization.